「市民会議」開催報告

矢作川流域圏懇談会「第３回市民会議」が開催される

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 23 年 11 月 26 日(土)
14:00 ～ 17:00

○開催場所
岡崎市民会館　集会棟１階パーティ室

○参加者：46 名（事務局・傍聴含む）

(2)内容

【会議議事】
第３回市民会議議事
①開会
②あいさつ
③本日の進め方及び今後の会議運営について
④これまでの活動報告
⑤まずやってみよう課題の確認と
　課題解決に向けた展開方法について
⑥話し合いのまとめ
⑦閉会

会議の様子

会議の様子

2. 主な会議内容

「第３回市民会議」では、主に以下の内容が協議、報告された。

○　各部会で検討する課題を以下のようにすることを確認した。
- 海：干潟の清掃活動、干潟の生き物調査、干潟・水辺のアクセス向上、干潟・ヨシ原再生
- 川：流域全体に関わる課題（上下流問題）、地先の課題
- 山：誰がやるか（人と地域の問題）、何をやるか（森の問題）

○　これまでの活動について報告し、メンバー間で共有化した。

○　地域部会に向けて、各部会でワーキングを設け、行政・関係団体に聞きたいこと、考えたいことを地域部会で検討していくこととした。

・　意見、質問　➢　回答

１．開会

２．あいさつ

市民会議 硲座長(矢作川「川会議」代表)

３．本日の進め方及び今後の会議運営について（資料１）

４．これまでの活動報告（資料２）

【海部会の活動について矢作川天然アユ調査会高橋氏より説明】

・　意見等は特になし

【山部会の活動について矢作川水系森林ボランティア協議会稲垣氏より説明】

意見は以下の通り。

・　海の勉強会にて、海の人が山へ木を植えればよいという認識があったが、山の勉強会では、それは必ずしも正しくないということを認識できるいい機会となった。（井上）

【川部会の活動について豊田市自然愛護協会 光岡氏より説明】

意見は以下の通り。

・　森の健康診断について、愛知県の場合は他の地域と比べてどのような評価が出来るのかわかれば教えて頂きたい。（杉山）

　➢ 森の健康診断では、植生、過密林の状況について調査を行ってきた。8 割近くの森が過密という結果となった。間伐等は長野県側が進んでいる状況である。他地域との比較・評価という面は明らかにしていないが、放置林に関連するものが多い。（稲垣）

・　森林の過密さと探鳥にはなにか関係はあるか。（黒田）

　➢ 人間の手が入った森はそれなりの種類の鳥がいるように思う。（高橋）

・　今回、家下川で見たようなきっかけを野鳥のためにも仕掛けて、探鳥会のようなイベントをすることもよいと思う。（黒田）

５．まずやってみよう課題の確認と課題解決に向けた展開方法について（資料３）

【海部会の課題について井上海部会部会長より説明】

・　海部会では、先ず漁業の人と仲良くなったうえで、市民の手として何ができるかを考えてきた。結果として、ゴミの問題があがっている。

・　豊かな海の実現のためには、先ず多くの方が海に目を向けて頂くことが大切であり、その意味で、先ほどご提案のあった探鳥会を行うことなどは有効と思う。

【意見・質問】

・　海部会として、川部会や山部会へ問いかける具体的な行動などがみえているのであれば教えて頂きたい。（本守）

　➢ 海部会としては、矢作ダムがあることで台風時に大量に発生する倒木を留

めていただいていることや、ゴミを上流で留めていただいているという認識はあるものの、最近ではペットボトルやタバコの吸殻が上流から流れてくるなどの問題もある。（井上）

- ペットボトルの問題は大きな社会問題である。さらに、海の場合は、上流からのみではなく、外国からもゴミが流れ着くことが考えられる。（黒田）
- 河口から見ると、川に水が流れないという問題もある。（松井）
- 倒木を人為的に抑制するということは、自然の流れではないという面で、疑問も残る。（長谷）
- 海部会の活動として、船で沖へ行くような企画があればよいし、かつてそのようなお話しがあったと思うが、その後の動きがあれば教えて頂きたい。（山本）
    - ➢ 現時点で実現化していないが、水産試験場などと連携して実現化できればよい。（井上）
- 船で沖に出て、沖合いの生物の生息状況等を明らかにする調査ができれば面白い。（山本）

【川部会の課題について硲川部会部会長より説明】

- 川は参加団体が大変多く、活動範囲が広いため、多様な視点で課題が出てきた。
- 行動をしながら考えよう、まずやってみようという方針で課題のテーマを設定してきた。その結果、地先の課題と上下流の問題の 2 つの視点から考えることとした。

【意見・質問】

- 家下川が通勤途中にあり、その周辺に多くの鳥がいたので興味をもっていた。その後、川を覗く機会があり、その際に小魚がたくさんいたことに驚いた。ちょっとしたきっかけを与えると生物が増えるという家下川の例では、野鳥も同じと考えられる。（杉山）
    - ➢ 川の河畔林にも多くの鳥が集るということであれば、活動を通じて鳥の種類が増えたことなどを確認できる探鳥会が出来るとよい。（硲）
    - ➢ 鳥が増えるとその箇所の虫、特に蝶などは 16 種類から 31 種類に増えたなどの報告があり、その種が増加する傾向にある。（洲崎）

【山部会の課題について稲垣 山部会部会長より説明】

- 山部会では、家下川のようにきっかけを与えればすぐに結果が出るようなものが少なく、また川や海と異なる点として個人所有が多いという点で他部会と大きく異なる。
- 市民レベルと学識者レベルが一緒になって議論を進めてきた経緯がある。

【意見・質問】

- 森づくり・木づくりガイドラインに関心があるがイメージがなかなかわきにくい面もある。また、役割分担に記載のある市民というのは、具体的に山主を意識していないようにも読める。市民の中に山主・地主をいれるべきと思うがお考

えを教えて頂きたい。（本守）

- 自分自身も山に住んでいる。山の持ち主の意向を無視して議論することは考えにくいが、実現に向けては困難な面もある。（黒田）
- 今まで森の健康診断がトラブルにならなかったのは調査の仕方が工夫されていたからと考えられる。（黒田）
- 山部会は課題解決に時間がかかるが山主の考えをいれて議論を進めたい。ただ、山主は、街に出ている方が多く、不在山主が多いことも一つの課題として挙げられる。（稲垣）

―休憩―

【海部会の課題と展開方法について】

- 豊かな海づくりには、珪藻の生成が必要。そのために、ケイ素が必須であるが、これは雨水には含まれない。ただ、雨水が土壌に浸透し、湧き出るようになればケイ素が含まれるようになる。そのため、上流側に湧き水が出るようにお願いをしたい。（井上）
- 伊勢湾再生計画が動いているがその関係について、今後どのような連携をとっていくのか教えていただきたい。（杉浦）
- 海の富栄養化にとっては、海に流れ込む栄養塩を減少させるという意味で、山の木はなくてもよいのではないかと思う。森と海がどのような関係になっているのかということをおさえておく必要がある。（杉浦）
    - 海も栄養は魚介類に結びつくような栄養が必要である。ケイ素が雨水の中にないので、一度地中をくぐらせる必要があるため、森林の土壌は極めて大切である。貧酸素状態が続き硫化水素が出てくると、生物がかなり減ることが分かっている。（井上）
- ヨシを植えることで、窒素などの栄養塩を吸収させていくという面もあるが、吸収されたヨシはどのような処理を行っているのか。（杉浦）
    - ヨシ原の再生については、矢作川の河口の生態系を復活させることが目的としている。そのため刈り取りまでは考えていないが、これが成功すれば次のステップを考えていきたい。（事務局）
- 森林と海の関係は、お互いが高めあえるような関係であることがよい。（長谷）
- 栄養塩のもとはどこからくるのかということは、現在までに様々な研究がある。人間生活に由来するポイントソースと、森林など広域かつ面的に出てくる汚濁であるノンポイントソースがあるが、どちらが決定的な影響を与えているかという点については決着していない。（蔵治）
- 窒素についてはよく研究されている。窒素は森林が吸収するということで、理解することは、この地域に限定すれば正しい。一方で、北関東や秩父山系では窒素の森林からの流失が問題視されており、その原因は大気汚染等の影響とされている。（蔵治）

- 栄養塩については、かならずしも科学的な根拠がない。（蔵治）
- 川・海に栄養塩を流さないということであれば、山をアスファルト舗装するか土壌を全て除去すればよい。ただし、山の木を全て切ることをすると土壌のみが残り、栄養塩類が大量にでるため、木がなければよいというような単純な話ではない。（蔵治）
- 少なくとも過去には、山に木がなかった時代があったかもしれないが、現在の姿にいたるまで、木・植物がたくさんあってというかたちが淘汰されたことが結果であると思う。山・川・海でやるべきことのバランスをどうするかということを会議で考えていきたい。（高橋）
    - 物質循環や物質収支は時代とともに変化してきている。このテーマをこの場で解決することは困難であるが、避けては通れないテーマなので現時点から認識していく必要がある。（黒田）
    - 人間が増えてきたことは事実で、その増えてきたことが問題だが、それに関連する問題点等を考える必要がある。（高橋）
    - 先ほどお伝えしたことは極論だが、森林に大きな期待をかけることが必ずしも正しいとは思わない。その効果の限界を見極めて考えるべきと思う。（杉浦）
- 市民の疑問や考えていることを、地域部会にもっていき、行政や学識経験者の方へお伺いすることも大切と思う。（硲）
- 市民会議の中だけで解決しようと思うとなかなか困難な面もある。（硲）
- ヨシ原はかつて商売として行われてきた。生業の中でうまく活用されてきた経緯がある中で、現代は化学物質が多く出てきたことが様々な問題を引き起こしている。そのため、山の手入れと同じように川の手入れが必要と思う。（小澤）
- 遊びで三河湾へ言った際には、ゴミを持ち帰るようにしている。かなりのゴミがみられるが、こんなにゴミがあるということをみんなで共有すること、またそれらを通じた啓発が必要と考えているし、そのような機会に参加したい。（小澤）
- かつて川は物質循環とともに管理されてきた。（黒田）
- 物質循環という面では、各部会に共通する部分もあるので、他部会の会議・ＷＧに出席していただくことも一向に構わないのでそのようなかたちですすめていきたい。（黒田）

【川部会の課題と展開方法について】

- 川部会では、やってみよう課題として資料に掲げた区間、課題について選別を行い進めていく。小さな力でも集れば大きなことを実施できるということを意識づけて取り組みたい。（硲）
- 抜けている課題や学識者にお聞きしたい点などがあれば、地域部会で聞いていきたい。（硲）
- 2 級河川など雑草や川の両脇、あるいは川の中に生えてきたものは刈りとってほ

しい。鳥獣保護のためにやっていることは理解できるが、川への愛着という面では必ずしも正しいとは思わない。どのような生き物がいるのかということに関心がいかなくなる。（長谷）

- 堤防をこえそこを降りたところで、川へのアプローチがないということが問題というご意見と理解する。（鷲見）
- 川の中の草を全て刈ってしまうことは反対だが、一部だけ草を刈りアプローチを設けることは有効と思う。生物とうまく共生できる方法を考えるべき。（本守）
- また、明治用水でアユをあげているは大変不自然であるので、魚道を作ってほしい。あわせて、支川の落差工等にも多段落差工を設けるなど検討すべき。（本守）
- 日本中の川は両側が護岸になっているため、なかなか人が近寄れない一方で、生き物たちにとってはいい隠れ家になる。自分の活動の中でも、沿川の一部を刈り取ってみるようにしている。これのいい点は、人間がさぼればすぐに元に戻るということ。なお、刈り取ったものは燃やして処分することを心がけている。（安倍）

・ 以前から 3 面張護岸をやめて川底のコンクリートをはがして欲しいということを言ってきた。各地域で 3 面張護岸を 2 面張護岸へということを進めていければよいと思う。（沖）

- 3 面張りをやめるような方向性を持ちつつ、出来るところから市民として実験的にやっていくことがよいと思う。そのような会合を多くもってすすめたい。（硲）
- なぜ全てが 3 面張りか、ということはよくわかっていない。（杉浦）

・ 矢作川は長いのでモデルということで本川と支川をわけることは合理的である。全ての区間が同じということは考えにくいので、まずはやってみようということで動いてみるということが大切だと思う。（光岡）

・ 地域部会までに議論をして進めていくということでよいと思う。（黒田）

【山部会の課題と展開方法について】

・ 木づかいガイドラインの木づかいの意味をお教えいただきたい。（本守）

・ 木材が安価になったことを打開するための解決策、有効利用という意味で記載している。（稲垣）

・ 木を使いながら山村の活性化を図るということのように読めるが、そのような理解でよいか。また、人工林を放置し続けるとどのようになるのか分かれば教えて頂きたい。（杉浦）

・ そのようなことを地域部会で学識経験者の方に聞いてみることが大切。（硲）

６．話し合いのまとめ

・ 地域部会に向けて、各部会のワーキング等でさらに議論を進め、地域部会で行

政や関係団体に聞きたいことを議論していく。（黒田）

- 市民企画会議へ参加していただきたい。（黒田）
- 地域部会や勉強会にあげてほしい内容について、ふりかえりシートに意見をたくさん書いていただきたい。（鷲見）

７．閉会

以上